



【挨拶する豊田長崎地区本部委員長（左）】

大会は、神近副委員長が開会を宣言。議長に米満代議員を選出して議事が進行した。

豊田執行委員長は、先の衆議院選挙を総括し活動の労をねぎらい、7月に発生した北部九州豪雨による甚大な被害が発生した事に、多発する自然災害に公共交通機関として災害に強い鉄道インフラ基盤の確立を求め、株式上場後の駅の無人化や要員削減に労働組合としてチェック機能を果たしていくため職場からの点検・摘発行動を活性化させていくと挨拶した。

また、最重要課題である組織の拡大・強化については、闘わなければ職場は守れないと立ち上がった長崎バスユニオンの闘いを報告し、粘り

強い交渉で労働条件などを勝ち取ってきた組合活動に自信をもって行動しようと呼びかけた。

九州本部の岩元書記長は、日頃の長崎地区本部の活動に感謝の意を表し、九州本部としても要望に応えるべく行動していきたいと挨拶。

また、複合施設の開発やタワーマンション建設、那覇でのホテルの開発、アジアへの展開など事業の多角化を進め、過去最高の利益を出している株式上場から一年がたったJR九州の現状を報告し、大分駅から宮崎空港駅間の4両ワンマン運転の鹿児島中央駅への拡大、利用者の少ないローカル線の廃線の危惧、北部九州豪雨災害での日田・英彦山線の問題など光の当たらない地域・ローカル線の交通を守る運動の取り組みを強化すると訴えた。

その後、2016年度の経過報告と2017年度の運動方針案、予算案が承認され役員の改選では全員が留任。「戦争をしない国」を目指し地域共闘の仲間と連帯し組織の総力を挙げて闘い抜くとする大会宣言を採択した。最後に豊田委員長の「団結頑張り」で閉会した。

第21回定期大会

地域共闘と連帯 職場から行動を

国労長崎地区本部

第21回定期長崎地区本部大会が11月2日、九州労働金庫長崎支店会議室で開催された。大会構成員、来賓、傍聴者など約30人が参加し、今後一年間の闘う運動方針が採択された。

「鉄道退職者の会」国労長崎県支部第27回定期総会報告

「鉄道退職者の会」国労長崎県支部第27回定期総会が、10月21日(土)11:00～諫早市「Aコープレストラン」会議室(参加者38名)で開催されました。

開会挨拶を受けた後に、物故者に対する黙とうが行われました。敷根会長の挨拶では、安倍政権による戦争が出来る国づくりが進む中、政権交代への選挙闘争の重要性、高齢化による会員の減少等、厳しい現状報告がありました。来賓では、鉄道退職者の会・門司地方連合会の関博光事務局長、国労長崎地区本部の豊田照二委員長が挨拶を行った。

各議題と活動方針を満場一致で採択し、役員選出では、全役員が留任となり、総会の任期は2年を確認した。終了後は、全員の参加で懇親会が行われた。(豊田 照二)



【38名が参加した第27回総会】